

製品安全データシート (MSDS)

作成 平成 20 年 1 月 28 日
改訂 平成 年 月 日

1. 化学物質等及び会社情報

製品

製品の名称 SYK 防錆浸透剤 300mL
製品のコード S-2515

供給者情報

会社名 鈴木油脂工業株式会社
住所 大阪市東淀川区井高野 2-1-37 (本社所在地)
兵庫県西宮市西宮浜 1-25 (研究部所在地)
担当部署 研究開発室
電話番号 06-6349-2312 (本社代表) 0798-26-4311 (研究部代表)
FAX番号 06-6340-6578 (本社) 0798-22-9082 (研究部)
緊急電話番号 0798-22-9082 (研究部代表)

推奨用途及び使用上の制限：潤滑防錆剤

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

特有の危険有害性

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性／引火性ガス	分類対象外
可燃性／引火性エアゾール	区分 1
支燃性／酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分 4
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類できない
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入：ガス)	分類できない
急性毒性(吸入：蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/目刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分 1

生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
標的臓器/全身毒性(単回曝露)	区分 2(肺)、区分 3(麻酔作用)
標的臓器/全身毒性(反復曝露)	区分 1(肺、皮膚)
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(慢性)	分類できない

ラベル要素
絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報 (麻酔作用) 眠気またはめまいのおそれ
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
可燃性液体
極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
臓器(肺)の障害のおそれ
長期または反復曝露による臓器(肺、皮膚)の障害

取扱注意
[予防策]

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
加圧容器：使用后穴をあけたり燃やしたりしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
熱/火花/裸火/高温のものから遠ざけること。－禁煙。
ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。

[対応]

火災の場合には、消火に粉末、二酸化炭素、アルコフォームを使用すること。
汚染した衣類は再使用する場合は洗濯すること。
気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
特別処置が緊急に必要である。
皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
暴露した時、または気分が悪い時は、医師に連絡すること。

[保管]

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

[廃棄] 内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS 分類に該当しない他の危険性
 液化ガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐れがある。

3. 組成・成分情報（混合物・危険有害性物質を対象）

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度 (質量%)	化学式又は 構造式	官報公示 整理番号 (化審法)	安衛法 政令番号	
有機系混合物	非公開	55~65	非公開	非公開	非公開	
液化石油ガス	プロパン	74-98-6	10~20	CH ₃ CH ₂ CH ₃	(2)-3	対象外
	イブタン	75-28-5	5~10	C ₄ H ₁₀	(2)-4	No.482
	n-ブタン	106-97-8	15~25	C ₄ H ₁₀	(2)-4	No.482

4. 応急処置

以下のいずれの場合も医師の手当を受けること。

- 目に入った場合 : 直ちに、清浄な大量の水でよく洗い流す。
速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚に付着した部分を直ちに大量の水及び石鹼を使用して十分に洗浄する。
ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。
外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
- 吸入した場合 : 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。
呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせず速やかに医師の手当を受ける。
- 最も重要な兆候及び症状 : 特になし
- 応急措置をする者の保護 : 火気に注意する。
- 医師に対する : 特になし
- 特別注意事項

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末、二酸化炭素、アルコフォーム。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水、噴霧水
- 火災時特有の危険有害性 : 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。
燃焼ガスには一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。
火災によって刺激性、毒性のガスを発生する恐れがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
作業は風上から行い、関係者以外の立ち入りを禁止する。
可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。
指定の消火器を使用すること。
火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。
火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火者は状況に応じて適切な保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、保護眼鏡、マスク等）を着用し、当該物の吸入や直接接触を避ける。

6. 漏洩時の措置

<p>人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置</p>	<p>: 曝露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取除く。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 密閉した場所に入る前に換気する。 回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>: 当該物を環境中（水域、土壌）に放出してはならない。 少量の場合は乾燥砂、土、おがくず、ウエスなどに吸収させて空容器に回収し、残りを水で洗い流し通常の廃液処理を行う。 大量の場合は漏洩した液は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収し、水で洗い流し通常の廃液処理を行う。</p>
<p>封じ込め及び浄化の方法</p>	<p>: こぼれた場合は液の拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は適当な吸収剤を使用して回収する。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>: 付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となる為注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 火花を発生しない工具を使用する。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意（関連法規に準拠して作業すること）

取扱い

技術的対策

: 使用時には保護手袋、衣類及び眼、顔面等の保護具を着用すること。また、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
火炎に向かって噴射してはならない。
高温帯との接触、または過熱を避ける。
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。
静電気対策のために、装置、機器などの設置を確実にを行う。

局所排気・全体換気

: 8. 曝露防止及び保護措置を参照。
取扱う場合は、局所排気内、または全体換気設備のある換気のよい場所で取り扱う。

注意事項

密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

安全取扱い注意事項

: 酸化性物質、有機化合物等と同一場所に置かない。

接触回避

: 酸化剤との接触を避ける。

保管

適切な保管条件

: 幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
40℃以上になる所には置かないこと。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料 : 高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱い設備は防爆型を使用する。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気設備を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
 「火気厳禁」、「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示する。

曝露限界値

成分名	管理濃度 (安衛法)	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
有機系混合物	不明	不明	不明	不明
液化石油 ガス { プロパン n-ブタン i-ブタン	設定されていない	1,000ppm	1,800mg/m ³	設定されていない
	設定されていない	1,000ppm	1,800mg/m ³	設定されていない
	設定されていない	1,000ppm	1,800mg/m ³	設定されていない

保護具 : 必要に応じて着用する
 呼吸器の保護具 : ミストや蒸気の吸込みを防止するために公認の保護具を着用する。
 手の保護具 : 不浸透性の防護手袋。
 目の保護具 : 保護眼鏡、防災面。
 皮膚及び身体の保護具 : 保護長靴、保護衣、前掛け等。
 適切な衛生対策 : 作業中は飲食、喫煙をしない。
 取扱い後は手をよく洗う。

9. 物理的及び化学的性質, 危険性情報

	内溶液	噴射剤
状態	液体	大気圧下 ガス状、圧力容器内 液状
外観	淡緑色透明	無色透明
臭い	やや特異臭	無臭
pH	データなし	該当しない
融点	データなし	-187.7~-138.4℃
沸点	データなし	-42.1~-0.5℃
引火点	86℃	-104.4~-73.8℃
発火点	データなし	405~550℃
爆発範囲	データなし	1.8~9.5vol%
蒸気圧	データなし	0.30MPa (20℃)
蒸気密度	データなし	1.895~2.538kg/m ³ (1MPa、15.6℃)
比重	0.810 (20℃)	0.556 (20℃)
溶解性	水に不溶	水に微溶
オクタンル/水分配係数	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
その他	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性 (製品として)

安定性 : 40℃以上になると破裂の恐れがある。

危険有害反応可能性	常用温度で缶内圧は約 0.35MPa。 内溶液は布等に染込ませた場合、自然発火の恐れがある。 本製品は可燃性ガスを含んでいる。
避けるべき条件	高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。
接触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	一酸化炭素など有害なガスを発生する恐れがある。
その他の危険性	データなし

1 1. 有害性情報（内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む）

急性毒性(経口)	:(製品のデータ) 分類できない
急性毒性(経皮)	:(製品のデータ) 分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	:(製品のデータ) 分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	:(製品のデータ) 分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	:(製品のデータ) 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	:(製品のデータ) 分類できない
眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	:(製品のデータ) 分類できない
呼吸器感作性	:(製品のデータ) 分類できない
皮膚感作性	:(製品のデータ) 区分 1 [(区分 1 の成分の濃度合計) が 0.1%以上含まれる為]
生殖細胞変異原性	:(製品のデータ) 分類できない
発がん性	:(製品のデータ) 分類できない
生殖毒性	:(製品のデータ) 分類できない
特定標的臓器/ 全身毒性(単回曝露)	:(製品のデータ) 区分 2(肺)、区分 3(麻酔作用) (成分のデータ:プロパノ) ACGIH の人への影響として麻酔作用を示すとの記述がある。 (成分のデータ:n-プロタ) ACGIH 及び産衛学会勧告の人において高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示すとの記述がある。
特定標的臓器/ 全身毒性(反復曝露)	:(製品のデータ) 区分 1(肺、皮膚)
吸引性呼吸器有害性	:(製品のデータ) 分類できない
その他の情報	:(製品のデータ) 分類できない

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性	:(製品のデータ) 分類できない
水生環境慢性有害性	:(製品のデータ) 分類できない
その他	:(製品のデータ) 分類できない

1 3. 廃棄上の注意

*大量廃棄の場合

内容物、容器の廃棄は許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理すること。

*少量廃棄の場合

本品を廃棄する際は、中身を使い切った事を確認した後、各自治体にて定める方法により廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

・「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

輸送の特定の安全対策及び条件 運搬の際には容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制	
陸上輸送	消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
国際規制	
国連分類	IMDG コード class 2.1
国連番号	1950
<hr/>	
15. 適用法令	
労働安全衛生法	可燃性ガス、引火性のもの。 第57条の2 第1項施行令第18条の2 別表第9 名称等を通知すべき有害物 鉱油(含有量5~15%)、ブタン
船舶安全法	高圧ガス
航空法	高圧ガス
高圧ガス保安法	適用除外(液化ガス・可燃性ガス) 但し、政令告示並びに一般高圧ガス保安規則に従う。
消防法	危険物第4類第3石油類
危険物船舶運送及び貯蔵規則	IMDG コード class 2.1 (UN No. 1950)
毒物及び劇物取締法	該当しない。
PRTR 法	該当しない。
<hr/>	
16. その他の情報	
参考文献	原料 MSDS 液化石油ガス MSDS 化学物質管理促進法対象物質全データ 労働安全衛生法対象物質全データ 毒物及び劇物取締法対象物質全データ(化学工業日報社)
記載内容の取扱い	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有重要な決定等にご利用される害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。
<hr/>	